四季の歌

心映の投句

俳句・短歌教室の詠歌紹介

はな句会　池田一歩選

父祖よりの馴染みの朱盃屠蘇祝ふ　熊谷カツミ
感謝また深まってきしお元日　本島真知子
百年を生きて更なる年迎へ　桑野　園女
昨夜の冷え霧氷の如し庭の木々　井上タミ子
山は雪里風音もなく静か　中西ナルエ
園暮し日毎に馴れて明の春　永末　公恵
新たなる気持で迎ふお元日　宇野美奈子
年の瀬の子等帰り来る嬉しさよ　大堀まさゑ
門松に積りし雪の目出度さよ　柴田ヒサエ
紅ひいて心老けまじ初鏡　池田　駒女
裸木のやがて芽を吹く時近し　持丸テル子

福智町金田公民館俳句教室　岩井鬼童選

煤払ふ古老のごとき床柱　日比生利子
城垣のゆがみを攻むる虎落笛　松岡　蔦枝
煤払貧乏神も追ひ出して　建部三由紀
詫びも添へ疎遠の友に賀状書く　小川　雪
川下り差す一棹に息白し　長副美恵子
籠城めく鍵の固さや虎落笛　迫田　昌子
パソコンの故障手書きの賀状書く　今井三千代
美しき女の嘘や冬薔薇　家高　恭子
湯豆腐の湯気に喜こぶ六腑かな　畠山　玲子
声が声呼ぶ歳末の商店街　花石かほる

方城句会　池田一歩選

奮迅の我が家族等の歌留多取り　倉石嘉代子
総出して鎮守の宮の年用意　白石　凡子
裏白は歯朶刈りと言ふ季語と知り　杉　フジエ
はゝがりの鮟鱇鍋と筑前煮　長尾　冴子
老ひいてもおしゃれ心の冬帽子　野村　鈴子
読みふける朱徳の伝記去年今年　藤井耿之介
厳かに神事おさおさどんど焼　渡邊　一枝
仰ぎ見る諭吉の像や雪催ひ　尾崎　和子
投げ入れの机上の瓶の枯尾花　木村　誠一
御正忌に猿も法聴く寺の屋根　朝部さよ子

ともしび短歌会短歌詠草

福智山に積れる師走の初雪の冷たき風は里を吹きぬく　越智　早苗
よき先輩仲間にかこまれ歌を詠むこの道が好き花あるかぎり　三村　和子
ほんのりと紅色のぞく蓚なる咲けば真白き垣根の山茶花　加治　智子
暮れのこる氏神さまの森の影いく代を経ても秋はさびしき　佐竹喜久雄
卒業後六十二年経て開かるるクラス会に集ひぬ友七人と　福田　昌

福智の風

▶知れば知るほど興味が増していったのは、加藤介春のその人柄でした。決して万人受けするタイプではないけれど、えてして人は完璧よりもそうでないほうが魅力的という、そんな人間の至情でしょうか▶「決して批評してくれるな」と自ら頼んでなるべく売れないようにした第一詩集『獄中哀歌』／のちの探偵小説家で九州日報社の後輩・夢野久作が公表した文『加藤介春を怨む』／介春没後、関係者によって出版された詩集中の『断層の上の夕暮れ』が、発表されたものと一致しないワケなど…▶今回紹介できなかったこれらの話については図録に掲載されています。今後、ぜひ介春が見直され、数多くの魅力的なエピソードと共に周知されることを願っています。（日吉）

写真が語る 昔なつかしの写真館

大雪の日の善照寺（赤池）
撮影者●柳澤 勝美さん
撮影日●昭和40年ごろ

深く積もった雪の中、長靴を履いて遊ぶ子どもたち。当時は平地でも年に何度か数十センチの積雪があり、そのたびに子どもたちはかまくらを作ったりして遊んでいました。

昔の写真を探しています！
問 企画課広報・広聴係
☎22-7766

☞ 広報ふくち1月号P.14「方城句会」の尾崎和子さんの句と渡邊一枝さんの句が入れかわって掲載されていましたことをおわびいたします。

福智の若鷹夢をつかむ

高倉絢璃くんと古屋雄輝くんが福岡ソフトバンクホークスジュニア初の栄冠に貢献

©NPBジュニア2009

→決勝戦でスタメンマスクをかぶり、ホームを死守する高倉くん。
↓優勝を決定づける「会心の一撃」。2点リードで迎えた決勝戦5回裏、古屋くんは2ランホームランをライトスタンドにたたき込んだ。

©NPBジュニア2009

プロ野球12球団のジュニアチームが札幌ドームを舞台に熱戦を繰り広げた「NPB12球団ジュニアトーナメント ENEOS CUP2009」に、高倉絢璃くん（金田）と古屋雄輝くん（神崎）が福岡ソフトバンクホークスジュニアの一員として出場しました。町内の少年野球チーム金田ジュニアクラブ（嶌田英志監督）の主軸として活躍している両選手は、9月下旬に開かれたホークスジュニアの選考会に挑戦し、九州から集まった約450人から18人のメンバーに選ばれました。試合までの3か月間で2人は4番やエース級が集まったチームでも「元気も声も出すこと」で存在感を発揮。高倉くんは勝負強いバッティングで、古屋くんはバントやエンドランなどの足を絡めた攻撃で、チームになくてはならない存在となりました。そして12月25日から3日間開かれた大会では、18人が一丸となって戦ったホークスが予選リーグを突破しました。2対2の同点で迎えた初戦の最終回は、引き分けでも予選落ちの危機となる2死1塁。代打高倉くんが期待に応えセンター前に2塁打を放ち、劇的なサヨナラ勝ちにつなげました。これで勢いづいたチームは、決勝トーナメントを勝ち抜き、決勝で読売ジャイアンツジュニアと対戦。この試合では古屋くんが5回にだめ押し2ランホームランの活躍。全員野球で12球団の頂点に輝いたホークスジュニアの中で、キラリと輝きを放った両選手は「本当に有意義な3か月間でした。野球が楽しめたのも、金田ジュニアでの厳しい練習があったから。これからもがんばって、大舞台での経験をチームのために役立てたい」と、晴れやかな顔で今後の目標を語りました。

小学生がプロ野球OBの指揮で戦う「NPB12球団ジュニアトーナメント」で、ホークスOB永井智浩監督率いるジュニアチームが初優勝。金田ジュニアクラブから選ばれた両選手が活躍し、福智町に金メダルを持ち帰りました。

↑ホークス西戸崎練習場で汗を流す高倉くん㊤と古屋くん㊦。

「全員野球」をスローガンに掲げ、選手の調子を見極めながらの柔軟なオーダー組み替えや勝負所での選手起用でチームを勝利に導いた永井監督。「18人全員で戦って野球を楽しむことがテーマだったが、これが本番の大舞台できっちりとできた。これからも野球をがんばって、いつか本物のホークスのユニホームを着てほしい」とV選手たちの未来にエールを送りました。